最新情報　コロナワクチンに対する考え方　　　 ２０２２．２．４．

谷内江 昭宏 氏

　新型コロナウイルスに対するワクチンが極めて迅速に開発された当初、私自身も懐疑的でした。きちんとした臨床試験が行われる前に、早々と現場に導入されることに対して不安もありました。また、おそらく大した効果がないだろうとも考えていました。

　一方で、初期の COVID-19 の感染拡大と、当初の高い死亡率、治療薬のない現実を見ると、何とかならないかという思いも抱えていました。そのようなときに劇的な mRNA ワクチンに効果に関する論文を見て、SARS-CoV-2 の感染拡大をなんとか最小限とするために、そして何より重症化や死亡を抑制するために、ワクチン接種が望まれると考えました。これはおそらく世界中で COVID-19 感染拡大と戦っていた医療従事者の大部分が共有した気持ちかと思います。世界的にもそのような観点からワクチン接種が推奨され、複数回接種も促進されてきたと考えます。

　COVID-19 は不思議な感染症です。若い世代を中心に、多くは無症状・軽症で経過する一方、ある一定のリスクを持つ感染者は瞬く間に増悪し、手の施しようもない事態に至りました。そのような COVID-19 感染拡大の状況を一変させたのが、ワクチンかと考えています。現実には、第五波のデルタ株による感染拡大前に高齢者を中心としたワクチン接種がほぼ終了していたおかげで、感染拡大の規模やデルタ株の病原性の強さに比べて死亡率が著しく低く抑えられたことは、幸運としか言いようがありません。デルタ株感染拡大のときに高齢者へのワクチン接種が始まっていなかったら、どのような事態になっていたかは、第四波での各医療機関や行政の苦労を知っているだけに、想像もしたくないようなことです。

　しかしながら、やはり懸念材料もあります。mRNA ワクチンはいずれもスパイク蛋白に対する免疫応答を誘導するものであり、これが感染予防や重要か予防に貢献しているのは事実です。一方、このスパイク蛋白は単に細胞への侵入に関与しているだけでなく、コロナ特有の病態（血栓形成や血管障害）とも関与する可能性が否定できません。報告されている mRNA ワクチンによる副反応の一部が、新型ウイルス感染によって起こる病態と類似した部分があることも、今後十分に検討される必要があります。

　今回のパンデミックでは、あまりにも急激な感染拡大、高い重症化率、劇的なワクチン効果などを総合的に考えて、接種を推進する選択がされていると思います。それはそれとして、このワクチンの課題については考え続ける必要があるかと思います。ポリオワクチンの時と同じ問題です。ワクチン接種の是非の問題ではなく、ワクチンをどのように使いこなすか、どのように改善していくかの問題かと思います。

　小児への接種について。

　ワクチンの目的は大きく分けて、個人の感染予防、発症予防、重症化予防が一つ、集団免疫への寄与がもう一つかと思います。後者はさらに、一般社会における集団免疫への寄与と、家庭を中心とした小集団における集団免疫への寄与に分けられるかも知れません。

　少なくとも11歳以下の小児への新型コロナワクチン接種に関して、集団免疫への寄与、特に一般社会での集団免疫への寄与を考えるのは無理があると思いますし、期待してはいけないと思います。

　現在のオミクロン株感染拡大の状況では、小児へのワクチン接種が考慮される状況は

　①自身が感染し重症化するリスクが高い疾患に罹患している場合（大学ではこのようなお子さんがたくさんいます）

　②ご家族、あるいは日常的に接触する方々の中に、決して感染して欲しくない方がいらっしゃる場合

の２通りかと思います。

　それ以外のワクチン接種が望まれる状況としては、想像したくないシナリオですが、ポストオミクロンにおいて、デルタ株、あるいはそれ以上の病原性を持つ変異株が、オミクロン株と同様の感染性をもちこどもたちの間にも流行し、かつこどもたちが必ずしも軽症で終わらないような事態が起こった場合です。

　以上の様々な状況を想定しながら、少なくとも小児へのワクチン接種がいつでも可能な体制を整備しておくことは有用かと思います。

　重要なことは直接こどもたちの医療について責任を持つ医療者が、上記のようなことを考慮しながら、保護者やこどもたち自身の相談に乗り、接種の是非についての適切なアドバイスを、その時々に行うことかと思います。医療者自身が、こどもたちへのワクチン接種の意義について、丁寧に考えて助言を行うことかと思います。

　オミクロン限定でお答えすると、

　①小児へのワクチン接種が可能な状況を整備することは有用

　②接種対象は限定的であるべき（重症化リスクのある小児は積極的に、重症化リスクを有する家族を持つ小児は接種について検討）

　言うまでもないことですが、麻疹や風疹と異なり、集団生活を守るという目的での接種圧力は排除すべき。

　以上、とりとめもない記載ですが、参考にして下さい。私自身まだ整理がついていない部分もあり、文献的エビデンスを参照しながら考え続けるつもりです。